

## 謹弔

次の会員がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。

富士	匡	氏	宇部市医師会	7月30日	享年	75
原	紀正	氏	下関市医師会	8月12日	享年	71
池田	真一	氏	下関市医師会	8月18日	享年	69

## 編集後記

“ニューノーマル”、ご存じですか。元々はビジネス用語で、2007年から2008年にかけての世界金融危機やリーマンショックを経た構造的変化を表現する言葉ですが、私は最近になってこの言葉を知りました。このコロナ禍では「今までの常識が大きく変わる」という場面でよく目にするようです。

今年5月末に山口県立美術館ヘデンマークの画家の展覧会に行った時のこと。感染予防のため大幅な会期短縮となり、混雑が予測されていました。まずは美術館の門のところで一人一枚の入場整理券をもらい、2時間後に集合。屋外のテントの下で、体温測定、手指消毒、問診票の記入を済ませ、注意事項を聞いて入館。正面のスロープを上ったところで、今度は入場時間ごとのグループに分けられ、グループカラーの札のついたストラップを首に掛けます。そして、横一列に間隔を空けて木の椅子に腰かけ、鑑賞の手順について非常に丁寧な説明を受けます。なんだか就学時健診を受けている気分。フェイスシールドを着けた美術館スタッフの皆さんには緊張感が漂っているようで、これだけの準備、さぞ大変だったことでしょう。鑑賞時間に制限があることは想定内でしたが、展示室間の移動にも時間制限があり、それより早くても遅くてもいけません。ですので、「この部屋はざっくり回って次に行こう」とか「さっきの作品が気になるから戻ろう」とかは難しいです。北欧絵画の静謐さを鑑賞する合間に、スマホの時刻をチェックし、自分の所属する紫グループからはぐれてないか、時々、周囲の人の胸元の札の色を確かめていました。無事に予定通りの時間に美術館を出たときには、いつもとは違う達成感と疲労感があった気がします。これが、私のニューノーマル「新しい常識・状況」との遭遇です。もっとも、次の特別展ではオンライン予約ができて、館内は自由に鑑賞できましたのでご安心ください。

いずれ、「あの時は大変だったね」と、このニューノーマルを笑える日が早く来てほしいものです。

(常任理事 長谷川奈津江)